

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099900054
法人名	株式会社 よろこび
事業所名	グループホーム よろこび
所在地	福岡県田川郡大任町大字大行事4125-1
自己評価作成日	H25年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成26年1月31日	評価結果確定日	平成26年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>今年初めて開設をしたグループホームです。役場の職員 地域のグループホームの方達 地域の皆様方の協力を頂きながら日々丁寧にケア実践に活かしております。まだまだ未熟ではありますが、高齢者の原則を基とした独自の理念を掲げ、入居者皆様一人一人の人生の継続を支援に携わらせていただいております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>周囲には田園風景が広がり、敷地内にも花が多く、四季の変化を五感で感じながら過ごせる環境である。12月よりイルミネーションの飾り付けを行ったことで、地域の方が見学に訪れ、毎年継続を希望する声も頂いている。今年の正月は、入居者の方々全員が、自宅での一時を過ごせるよう家族との連携を図り、実現している。また、日常の中でも、畑での野菜作りや漬物作り等、得意なことを継続できるよう支援しており、暮らしの営みや関係性の継続に向けた働きかけを行っている。管理者、職員は、業務優先ではなく、入居者個別の暮らしを優先し、寄り添う支援の実践に取り組んでいることが、家庭的な雰囲気や豊かな感情表現から伝わってくる。開設初年度であり、一つ一つ、自然体でのサポートを積み重ねながら、本人本位に基づくケアの提供を継続していくことが大いに期待される。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より、事業所理念を作成。管理者と職員は、その理念を共有して実践に繋げている。	開設時に、全員で何度も話し合っ作られた理念を、職員は身近に感じている。目につきやすい場所に掲げ、日々の朝礼時に唱和し、一日の始まりとしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	役場などで地域のイベントの情報を得て利用者へ参加を促している。その日の天気、体調に左右される為、思うような参加ができていない。	道の駅のイベント参加や、事業所にイルミネーションを飾りつけることで、近隣の方が立ち寄る機会となるようにしている。また、職員が隣町の体操教室に参加し、自分たちの地域で出来るものを模索する等、相互に必要とされる関係作りに向けて取り組みを行っている。日常の交流を大切にしながら、一つ一つ自然体での交流を積み重ねていく意向である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方達にも理解をして頂く為に 理容室やスパーの利用を行っている。笑顔だより等を発行し、運営推進会議等で情報を発信している。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、よろこびの活動内容の報告や入居者の身体状況の報告、入居者の思いを話し合ったり、防火訓練の参加 夏のイベントの協力要請とその後の参考になる意見を頂き改善に努めている。	運営推進会議は、複数の家族、区長、民生委員、町役場担当者、地域包括支援センター職員等の出席を得て、2ヶ月に1回、開催されている。事業報告や状況報告等をもとに、情報共有や意見交換を行い、サービス向上に結びつけるよう取り組んでいる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場の職員には運営推進会議のメンバーに入ってもらったり、よろこびの相談員にもなって頂き、意見を頂いている。研修会への参加の呼びかけも行っている。	運営推進会議には、町役場担当者及び地域包括支援センター職員の出席を得ている。立ち上げ準備の際より、情報提供やアドバイスを受け、顔の見える関係性の中で、日常的に連携を図っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯としての21時以降の玄関の施錠、門扉の封鎖はあるが、よろこび全体として身体拘束が行われないようにしている。日頃より職員同士で再認識を行っている。	日中は施錠されていない。外出の機会が多く、不意の外出の意向にも同行しており、入居者の方々も安心して過ごしている。言葉による抑制等についても、朝礼時に意識付けを行い、日常の中での気づきを共有している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体だけではなく、精神的虐待についても、スタッフが正しく理解できるように努めている。日々のケアの中で、入居者の状態観察を行い、身体的変化に気をつけながら、無意識にでも行っていないか、虐待の可能性がないか再確認し、ミーティングなどの話し合いの場をもうけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域後見人制度は、契約時介護保険の説明と同時にご家族に説明をするようにしている。家族もまだぴんと来ない様子である。知識としては細部までご家族に説明ができていない。	成年後見制度や日常生活自立支援事業については、入居時に情報提供を行っている。必要時には活用に向けた支援が行えるよう、研修の機会を設けていく予定である。	職員が、権利擁護に関する制度の理念や意義について学ぶ機会を確保し、必要時には活用できるよう取り組んでいくことが期待されます。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約の際には、管理者がご本人ご家族と十分に時間を設け、説明して、理解、納得を図って反映されている。入居後も不明な点があれば、説明や相談に応じる。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などの地域の方との交流の場を通してご本人ご家族が外部の方と会わせる機会を設けている。来所時に意見交換が出来る機会を作るようにして運営に役立てている。	運営推進会議には、複数の家族の出席を得ており、議事録も閲覧可能としている。日頃から、お互いに意見の言いやすい関係作りに努め、コミュニケーションを深めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見交換は毎月1回のミーティングで反映されている。全体の運営会議や個別的にも意見交換ができるようにしている。皆の意見を交わせる雰囲気を作っている。多くの視点で入居者の生活を支えられるよう。スタッフ間でのコミュニケーションを図れるように努めている。	日常の中や、毎月1回のミーティングにて、職員意見の収集に努めている。一方的に聴き取るのではなく、能動的な関わりを大切にしながら、意見や提案が表出しやすいよう配慮している。研修参画によって、職員の意識が大きく変わることも含め、様々な視点を確保しながら、サービスの向上に結び付けていく方針である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のスタッフの状況を把握、労働時間や職場環境の把握、整備に努めている。また運営推進会議を通して、職務状況の把握、就労条件の改善に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、年齢に囚われず、平等性、公平性を重視しながら採用を行うよう配慮している。	職員の採用にあたり、人柄を重視し、性別や年齢、経験等による排除は行っていない。お互いに認め合いながら、それぞれの個性や能力を発揮する機会を大切に、風通しの良い環境作りに努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝礼にて、毎日理念を全員で呼称を行い倫理規程の保持を図る。ミーティングにて人権の尊重には取り組んでいる。	開設時には、先ず理念や接遇について研修を行い、また、内外の研修参加を通じて、認知症ケアや倫理・法令遵守等について意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域や病院が主催する認知症の研修に出来る限り参加をしている。26. 1月14日からは認知症介護指導者に職員が参加を行う。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にグループホーム協議会が無い為、個別で訪問して、サービスの質の向上に取り組んでいる地域の同業者としての協同が得られている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず病院や自宅を訪問し、ご本人、ご家族との関係作りを行っている。その時の聞き取りをアセスメントシートに記入して、少しでも早くよろこびに馴染んで頂けるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の契約を交わす段階より、ご家族と話し合う機会を多く持ち、認知症について理解して頂いたり、家族の気持ちや不安、意向を十分に聴くようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、本人、家族、主任と話し合い、利用者、家族のニーズの検討を行い、スタッフの間で話し合い、ご本人の要望に沿ったサービスの提供が出来るように努めている。他のサービスの訪問看護、主治医等とも連携を図っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存機能能力を大切に、日々の暮らしの中や入居者のアクティビティの場面で、力を発揮する場をつくっているが、利用者の方が自分達は施設にいるのに何故ご飯を作らないといけないなどの質問や参加ができないのが現状である。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には運営委員会の参加やイベントの呼びかけをしている。ご家族の入居への思いを大切にしながら、ご家族と情報を共有していく事を心掛けしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	帰宅支援、また馴染みの美容室やスーパーへの外出、自宅近くまでのドライブ、地域のイベントの声かけなど行っている。また馴染みの知人が来客される事もある。	馴染みの美容院の利用や、ドライブの際には、いつも利用していたスーパーや懐かしい場所、自宅周辺を訪ねることもある。畑仕事や漬物を漬ける等、得意であったことを把握し、継続できるよう支援を行っている。正月には、全員の入居者が自宅での一時を過ごせるよう支援する等、特徴的な取り組みもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝礼、夕方の申し送りミーティングにて利用者同士の関係を把握し、職員が間に入りながら関係づくりに努めている。入居以降から築かれた入居者同士の人間関係、入居者同士の助け合いを大切にしながらも状況に合わせて全員の輪を大切に、皆で支えあって生活できるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者の家族には困った事があった時は相談を下さいとお声を掛けながら、関係性の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の時やその日の計画を立てたり、また日々の会話からも希望や要望を取り入れている希望、意向の把握が困難な際にはご家族と話し合いを行い、本人の視点に立った支援を行っている。	入居時には、特技や趣味、生活歴等の情報把握に努めている。日常の中で、言葉や表情、仕草等から、思いや意向の把握に努め、その実現に努めている。困難な場合には、家族等の関係者からの情報共有を図りながら、本人本位の検討に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族には本人の今までの生活の様子を伺い、情報収集を心掛けている。また入居後も本人の会話からも普段の会話の中からのどのような暮らし方をしていたか等を伺い、職員同士で把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの中で少しでも変化や気付きがあれば日々記録に残している。それを読むまたは申し送ることで職員間の情報の共有を図っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の想いや主治医、看護師からの意見を参考にしている。現状の即した介護計画を作成している。	本人、家族の意向を踏まえ、医療関係者の意見も反映しながら協議を行い、介護計画を作成している。家族の役割等も具体的に盛り込まれ、個別性ある介護計画が作成されている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度職員間で話し合い、ミーティングを行っている。朝夕の申し送り等にて疑問点を見出して実践計画の見直しをする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要、要望に応じて帰宅支援を行ったり、隣接するグループホームと協力しながら支援を行うなど各入居者独自のニーズに努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方達にも理解をして頂く為に 理容室やスパーの利用を行っている。笑顔たより等を発行し、運営推進会議等で情報を発信している。まだまだ地域の行事への取り組みができてはいない。声をかけて利用者の促しはあるのだが、参加が出来ていない状況である。防災訓練等は年に2回あるのだが、今度行う際はご近所への呼びかけを行いご協力をお願いしたいと思っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者一人一人の主治医への受診の際には、近況の報告を行っている。主治医との連携を行い、適切な医療が受けられる様に支援をしている。	入居時に、希望するかかりつけ医について確認を行い、家族の状況に応じて、受診の支援を行っている。また、複数の医療機関との連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援を行っている。今後は、訪問診療体制や、家族と医師との関係継続に向けた関わり等についても、意識した取り組みが期待されます。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員から日々の気付きや近況報告を行っている。また訪問看護師の協力を得て、入居者の健康管理に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院された場合にはできるだけ頻回に訪問をしている。入院をされた時には主治医、担当の看護師に施設での様子など情報提供を行う早期退院ができるように病院側との連携を図るようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の段階から重度化や終末期についての本人と家族の希望を伺っている。	入居時に、重度化した場合や終末期に向けた事業所としての方針や体制を説明し、本人、家族の意向を確認している。今後は、職員の理解や意識を高めながら、終末期への対応も視野に入れ、体制の整備に努めていく意向である。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にてAEDの使用方法や応急手当や急蘇生などを学び 急変、事故発生時に備えている。職員も上級救命講習に参加をしている。しかし落ち着いた行動が出来るのかは疑問がある。今後は勉強会を増やして自主的に取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回行うようにしている。今後は地域の方達にもご協力参加をして頂き 意見等をお聞きしたいと思っている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を計画し、ミーティング等にて課題を検討している。運営推進会議の中で働きかけを行う等、地域との連携作りに取り組んでいるところである。	今後も継続して働きかけを行いながら、地域との連携体制作りに取り組む意向である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃よりよろこび基本理念のもとに支援をおこない、朝礼やミーティングなどで振り返りを持つなどしているが、日々の対応の中で十分に出来ていない事が時折見られる。	入居者、職員が、お互いに認め合い、家族的な穏やかな雰囲気は当事業所の大きな特徴である。管理者、職員は、日常を振り返る機会を持ちながら、馴れ合いとならないよう意識を高めている。一人で過ごす時間や居場所の確保に向けた配慮も行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝礼時にその日の予定や献立などを話し合いをして、暮らしのなかで入居者の自己決定が出来るように支援をしている。運営推進会議などで本人の思い、希望を表す機会を設け、実現できるように支援をおこなっている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活において、また外出やイベントの参加、アクティビティのお声掛けの際には、入居者のペースを最優先に考え、希望や意向を確認している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は一緒に洋服を選んだり、要望があれば髪染めを行ったり、馴染みの美容室に出掛けたりなどの支援を行っている。外出時は玄関先にある大きな鏡で自分の出かける姿を確認して頂いているが、髭剃りや食べこぼしや汚れ、など充分に行えてない事もある。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方と出来ない方が居るので、出来る方には一緒にお買い物へ行き献立を決め、簡単な調理をお願いする事がある。出来ない方にはテーブル拭きやお茶碗の片付けなどをして頂くように声かけを行っている。	入居者と一緒に献立を考え、買い物に行き、料理を手伝ってもらうこともある。梅干しやぬか漬け等の作業をともに行い、それぞれの入居者の方の得意分野の発揮や暮らしの営みの継続に向けた取り組みがある。時にはホットプレートを用いてお好み焼きやたこ焼き作り、手巻き寿司を皆で調理する等、普段とは違う雰囲気を楽しむ機会がある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の好みや入居前の習慣などを考慮して、個人個人に応じた飲み物、水分量を提供している。また、嘔吐や嚥下の状況を見て、小さく切ったり、ほぐしたり、柔らかくしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯医者への往診時に報告。また助言を頂きながら食前には口腔体操、食後には入居者と一緒に、または介助により口腔ケアを行っている。義歯は夜間洗面所で外し、洗浄剤に保清を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄パターンを把握し、また入居者のサインを見逃さないように声かけをしたりしてトイレへの誘導を行い、できるだけオムツをしなくても良いように心掛けている。オムツを使用する際にも種類、使用頻度を検討している。失禁時には声かけ等にも配慮している。	排泄チェック表を作成し、個別の状況やパターンの把握に努めている。日常の観察や夜間の状況も鑑み、カンファレンス等にて必要な支援を見極めている。排泄ケアの際のプライバシーの確保については、特に配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃の食事の中で野菜を大目に摂る事を心掛けたり、入居者によって生活習慣がある為便秘予防で食べてこられた食材を定期的に食べて頂くなど出切るだけ薬に頼らないように心掛けている。散歩や運動も取り入れているが、下肢筋力の低下により、入居者によっては少ないことがある。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中は男性 午後からは女性と分けて行っている。男性が入った後の入浴は女性が嫌がったりする。時間帯に寄っては職員体制が十分ではなく対応できない事もある。	週3回の入浴日の設定があり、入居者の意向も踏まえ、午前と午後で男女の入浴を分けている。希望や体調等を考慮しながら、無理強いとならないように支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に眠気、疲労が見られる場合には状態に応じて居室、ソファ、などで休息出来るようにしている。夜間に利用者が眠れない場合などは、日中の過ごし方などを朝の朝礼時に検討し、打開策を考えながら支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に頂いている薬情報をファイルにまとめ、または新しく追加になった薬の確認を朝礼、夜間の申し送り時に行い、徹底している。薬を飲んだ後の体調の変化も見逃さないようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	10ヶ月近く立った事で、その人の個人の趣味や楽しみなど解ってきた。外出を嫌いな人や外に出たがる人、調理を得意にする人、苦手な人それぞれの残存機能を活かした役割等をお願いする事で張り合いのある日々を過ごせるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	朝から外に出たがったりした時には、昼から一緒にお買い物や思いで深い場所などに出かけるようにしている。出来るだけ希望を叶えられるようにしている。	季節の変化を肌で感じながら、日常的に散歩や買い物に出かけている。下肢筋力の維持、活用も意識しながら、道の駅やスーパー、ウインドウショッピング、喫茶等、外出の機会が多い。天気の良い日には、戸外でおやつを楽しむ機会もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預かり金として本人のお金を預かり、好きな時に欲しい物を購入したり、遣う事ができるようにしている。買い物へ出かけた時には支払い時には本人にお金渡し、支払う事が出来るように等を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレスの電話にて利用者のご家族に電話をしたいと訴えがあった時には、ご家族の協力を得て電話をするなど対応している。ご家族には暑中お見舞いや年賀状などをご本人様に記載をして頂きお送りしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、廊下などに季節の物を飾ったり、置いたりして、居心地よく過ごせるようにしている。	リビングのホワイトボードには、毎日、入居者が順番で日付を記入している。季節感ある飾り付けや生け花、また、日常生活写真や行事の写真を掲示している。個人の居場所の確保に配慮している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間であるホールの食堂やテレビ側の椅子に、いつでも何処にでも誰もが、居場所があるように工夫をしている。しかし男性の利用者が一人になりたい時が多いようで個室に入る事が多い。声かけは忘れないようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族に馴染みの物を持ち込んで下さいとお願いをしている。自宅に居た時と同じ環境になるようにしている。しかし家族が自宅に帰りたい事になると困るからと言われ拒否をする方もいる。	採光も良く、明るい居室には、クローゼットが設けられている。仏壇やテレビ、使い慣れた小物入れ、趣味の作品等が持ち込まれ、居心地良く、安心して過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の場所 トイレお風呂場など間違いがないように表札など工夫をしている。椅子やテーブルにも名前を記載している。		